

事務事業名		プラネタリウム運営事業		会計	一般会計	実施区分			
H28担当課等名		美術博物館		事業種別	政策	開始	1	終了	
H28係等名		学芸係		H27係等名		学芸係			
基本計画上の位置づけ		政策	2	地育力によるこころ豊かな人づくり					
		施策	29	ふるさと意識の醸成					
目的	対象(誰・何を)	飯田下伊那の住民					指標名及び単位		27年度数値
	意図(どういう状態にするか)	ふるさとの自然・文化・星空・景観のすばらしさを学び、地域を大切にすることを育む					対象指標		圏域住民数(人)
	向上させたい上位施策の成果指標	1 飯田の自然・歴史・文化を学んでいる市民の数(延べ人数)							163592
目標	種別	指標名及び単位			27年度計画	27年度実績	28年度計画	28年度見込み	備考(指標変更など)
	成果指標	プラネタリウム観覧者数			20000	17476	20000	-	
	定性目標								
事業概要	<p>プラネタリウム機器を良好に維持管理しながら子どもから大人、地区住民から観光客・行政視察等の幅広い層に対して、積極的な事業展開をはかる。また子どもたちなどに対する天文教育・情操教育を、よりニーズにあった形で実施する。</p> <p>1 オリジナル番組作成および一般番組購入</p> <ul style="list-style-type: none"> ・四季ごとに年間4本の番組を購入 ・オリジナル番組作成(*H28年度から新事業) <p>2 番組投影</p> <ul style="list-style-type: none"> ・一般投影(定時の投影) ・予約投影(申込みによる随時投影) <p>3 ドームの多目的利用(イベントなど)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・プラネタリウムまつり、オリジナル新作発表会、プラネタリウムコンサート、ヒーリングプラネタリウム、各種事業での活用、視察対応などを実施する。 ・従来のチラシ配布等に加えて、マスコミ等を巻き込んだ広報活動を展開する。 ・プラネタリウム館の連携を図る。 <p>4 プラネタリウム機器の維持・更新</p>								
27年度事業内容	事業内容				名称			活動指標	
	<p>1 オリジナル番組作成および一般番組購入</p> <p>(1) 一般番組購入 家族向けの心温まる番組と教育的なアニメ番組</p> <p>(2) オリジナル番組作成</p> <p>2 番組投影</p> <p>(1) 一般投影 土・日・祝日・長期休み5回、平日2回投影</p> <p>(2) 予約投影 随時投影(10名以上、3カ月前から予約受付)</p> <p>3 ドームの多目的利用</p> <p>(1) プラネタリウムまつり、オリジナル新作発表会、オーロラ上映会、オリジナル番組特別上映の実施</p> <p>4 国内及び県内プラネタリウム館との連携、投影技術の研修等の実施</p> <p>5 機器のメンテナンス及び更新</p>				<p>1</p> <p>(1) 一般番組購入数</p> <p>(2) オリジナル番組作成数</p> <p>2</p> <p>(1) 一般投影回数</p> <p>(2) 予約投影回数</p> <p>3 ドームイベント回数</p> <p>4 研修会への参加回数</p>			<p>1</p> <p>(1) 6本</p> <p>(2) 1本</p> <p>2</p> <p>(1) 934回</p> <p>(2) 114回</p> <p>3 4回</p> <p>4 3回</p>	
事業コスト		26年度決算額	27年度予算額	27年度決算額	28年度予算額	特定財源内訳、補足			
事業費計(千円)①		10,981	11,326	11,253	8,424	(国) 社会資本整備総合交付金(市街地整備)(4.5/10) (そ) 美術博物館観覧料			
国庫支出金		873	801	801					
県支出金									
起債									
その他		1,748	1,210	1,210	1,450				
一般財源		8,360	9,315	9,242	6,974				
人件費計(千円)②		0		0					
正規職員所要時間									
臨時職員所要時間									
総事業費①+②		10,981	11,326	11,253	8,424				
事業内容・目標達成状況の振り返り		<p>機器更新の5年目にあたる平成27年度は、前年同様、幼保育園児～小学生とその親を主なターゲットにして広報活動を行ってきたが、観覧者数は昨年とほぼ同じで、目標には届かなかった。新たな試みとして、夏休み期間中にオリジナル番組特別上映を8回実施した。これにより高校生など新たな客層を得た。</p>							
改革改善の考え方	①問題点	デジタル機器に更新してから6年目となり、コンピュータの耐用年数が近づくとともにドームの映像が少しずつ劣化してきた。また映像分野の進展によって新しい規格の番組が投影できないという事態が生じてきている。							
	②改革提案	今後6年間にわたって計画的に機器を更新する。							